

評・森本 あんり (神学者  
東京女子大学長)

言葉を覚え始めた幼児が「わんわん」「お花」と言う。こちらが「うん、かわいいね」「きれいだね」と言うのを待っている。お返事せずにいようなものなら機嫌を損ねてたいへんである。

本書によると、この些細なやりとりの瞬間に、ヒトは六百万年の進化を旅している。ヒトとチンパンジーは、ゲノム解析ではほんの数パーセントしか違わない。人間だけが偉いわけじゃない、と研究者たちは言いたがる。だが本書は、人間がいかに特殊な動物かを教えてくれる。

たしかに、チンパンジーも多くの単語を覚えて使うが、それらを文法的に組み合わせる会話をすることはない。というか、そもそも「話したい」と思わないらしいのだ。これには驚いた。チンパンジーは自分の要求を訴えるだけだが、幼児は「わんわんかわいい」「お花きれい」と世界を描写する。しかも、言って終わりではなく、相手が自分の思いを受け取って共有してい

### 言語や文化持つ特殊性



こまごま・研究総合  
前学長。自然  
行動生態学、  
人類学。  
1952年生まれ。  
はせがわ・まりこ

東京大学出版会 2420円  
長谷川眞理子著

## 進化的人間考

ることを確認する。つまり、単に発信するだけでなく、心と心がつながったことを自分で確認したのである。この入れ子構造の認識が「自意識」を生み、文化の蓄積を可能にする。

遺伝の話になるとよく出てくるテーマもある。肥満遺伝子はあるか。自分の危険を顧みずに人助けをしてしまうのはなぜか。食料があるのに少子化が進むのはなぜか。人間の本性は善か。男女の脳は性的分業の生物学的な結果か。

思わず膝を打つ発見も多い。ヒトは共同繁殖なので、親だけで子育てをするようにはできていない。食性からみたヒトの適正密度は、一方キ当たり一・五匹。ヒトは向社会的な共感脳をもつので、ネットの炎上は社会性の裏返し表現かもしれない。万人が万人に狼オオカミであるとするホップズ説は誤りである、などなど。

ただし、著者は徹底して実証的である。進化を進歩と混同したり、倫理のお説教をしたり、存在から当為を引き出したりしない。人文社会系のヒトヒトこそ読んで楽しめる一冊である。